

令和元年度 佐賀県学習状況調査・全国学力学習状況調査の分析結果と 今後の対応について

小城市立三日月小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年国語・算数）、佐賀県学習状況調査（5年国語・算数）の本校全体の結果をまとめました。

また、生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

【全体の正答率について】

5年国語科：全体の正答率は	県の平均と	ほぼ同じです。
5年算数科：全体の正答率は	県の平均と	ほぼ同じです。
6年国語科：全体の正答率は	国・県の平均と	ほぼ同じです。
6年算数科：全体の正答率は	国・県の平均と	ほぼ同じです。

【個票の配布について】

結果の個人票については、5年生は1学期に配布しました。6年生は2学期当初に配布をします。本校では、夏期休業中に、職員研修を行って今回の結果を詳しく分析しました。その分析をもとに、2学期以降の授業の改善等に生かして、学力の向上をはかっていきます。

【今後の取り組みについて】

家庭学習の具体的な取り組みについては、2学期当初に「家庭学習リーフレット」を保護者の皆様に配布してお知らせします。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より学力の定着が図れます。保護者の皆様におかれましては、本校の取り組みを御理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

～全国学力・学習状況調査，佐賀県学習状況調査の分析結果と今後の対応について～

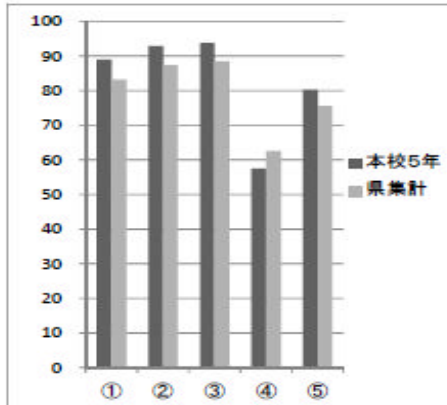
	分析結果 《◎よい ○ほぼ同じ ●課題点》	今後の対応
5年 国語	<p>○全体の正答率は、県平均とほぼ同じ。</p> <p>◎「語句の知識」は、県平均をやや上回る。</p> <p>○「読むこと」は、県平均とほぼ同じ。</p> <p>●「書くこと」「話すこと、聞くこと」は県平均をやや下回る。</p> <p>●条件に沿って作文を書くこと</p> <p>●長文を速く正確に読み取ること。</p> <p>●文脈に合った漢字の使い方。ローマ字の読み書き。</p>	<p>①国語科や他教科の授業においても話し合い活動を取り入れる。</p> <p>②条件に合わせて書く活動を取り入れる。</p> <p>③文章全体の構成を考える活動を取り入れる。</p> <p>④漢字やローマ字の読み書き、文法の学習等を、家庭学習に取り入れる。</p>
5年 算数	<p>○全体の正答率は、県平均とほぼ同じ。</p> <p>○観点別では、「知識、理解」「考え方」はほぼ同じ。</p> <p>○「量と測定」は県平均とほぼ同じ。</p> <p>●「技能」が県平均に届いていない。特に（ ）を使った四則の計算。</p> <p>●図形領域で、展開図に関する問題。</p>	<p>①「すすくタイム」等に基本的な問題を反復練習させることで知識理解や技能の定着を図る。</p> <p>②問題文の題意をしっかりと捉えるために、問題文を短く切って読み取らせたり、アンダーラインを引いたりさせる。</p> <p>③ICT を活用し、視覚支援を行うことで、空間認知を助ける。</p>
6年 国語	<p>○全体の正答率は、国・県平均とほぼ同じ。</p> <p>○「読む」はやや上回る。</p> <p>●「言語事項」が下回っている。特に、文脈に沿った漢字やことわざ等を使う、接続語を正しく使うこと。</p> <p>●条件付きの問題に慣れることも必要である。</p>	<p>①条件付きの作文（字数制限、内容に即した文章で自分の意見をまとめる等の複数条件）の学習を取り入れる。</p> <p>②同音異義語、漢字、ことわざなどを文脈に沿った使い方ができるように練習をしていく。</p>
6年 算数	<p>○全体の正答率は、国・県平均とほぼ同じ。</p> <p>◎四則の計算の仕方を正しく理解している。</p> <p>●文意を把握せずに、問題文にある不要な数字等を構わず使ってしまう。</p> <p>●図形や立体を頭の中で回転すること。</p> <p>●筋道を立てて説明する。記述式の問題では、無答率が高くなる。</p>	<p>①筋道を立てて考える力をつけるために、問題文から分かることを書き込んだり、文意を絵や図で分かりやすく表現したりすることで、情報を分かりやすく整理する。</p> <p>②問題文の情報を整理して、必要な情報を取り出す</p> <p>③低学年のうちから、ブロックなどの具体物を使った指導をしていく。</p>

～生活習慣に関する意識調査について～

令和元年度 三日月小 生活習慣に関する意識調査 【5年】

【数値が特に高かった項目】

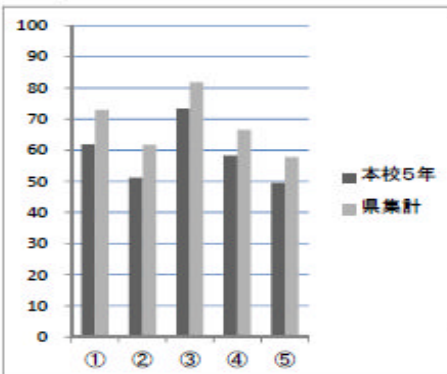
調査の項目	
①	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う
②	学校に行くのは楽しいと思う
③	学校では落ち着いて勉強することができると思う
④	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う
⑤	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



【分析と取組】
 ○「学校に行くのが楽しい」、「学校では落ち着いて勉強することができる」と思う児童は、どちらも90%以上に達しており、ともに県平均を5ポイント以上、上回っている。
 ○授業では、話し合い活動をよく行っている(89%)と思っており、「授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う」児童は、57.5%、これは、県平均を5ポイント下回っている。つまり、自分の考えを話したり書いたりすることに抵抗を感じている児童が少ないということである。そこで、話し合わせるたり書かせたりする内容をより焦点化したたり、より魅力的にしたりすることで、学習内容の理解度が上がるようにしたい。
 ○「読書は好き」と思う児童は、87.4%で県平均を4.2ポイント上回っている。今後も、本を読む楽しさを味わわせ、読書を習慣化させていきたい。
 ○「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」児童は、80%で、県平均を4.7ポイント上回っている。校内研究の成果の一つであると考える。

【数値が特に低かった項目】

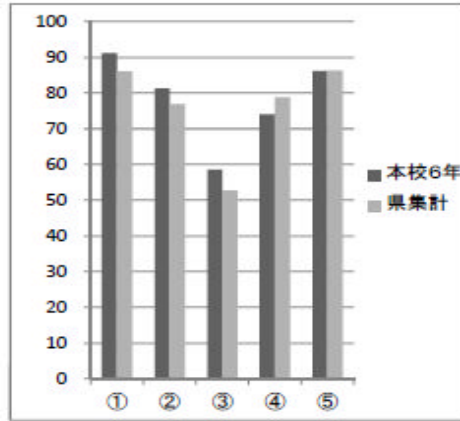
調査の項目	
①	今住んでいる地域の行事に参加している
②	普段(月曜日から金曜日)、何時ごろに寝ますか(午後10時前に寝ている)
③	社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している
④	自分で計画を立てて勉強している
⑤	学校の授業の復習をしている



【分析と取組】
 ○児童や保護者の教育に対する意識は高いが、地域活動への参加の意識は低いと思われる。
 ○平日の寝る時間が遅い傾向にあるので、生活習慣調査などを行って睡眠時間への意識を高めるとともに、家庭にも協力を呼びかけていく必要がある。
 ○社会科の学習では、1時間の授業で何について学習するのか、何を調べるのか、何について話し合うのかを明確にするため、めあてを児童とともに設定し、まとめと運動するような授業展開の工夫が必要である。
 ○自分で学習スタイルを確立している児童は、正答率が高い傾向にあるが、本校児童においては、家庭学習への計画性をもっている児童が少ない。
 ○学校の授業の復習をしている児童は、正答率が高い傾向にある。しかし、本校児童は、自主学習等において復習に取り組んでいる児童が少ない。

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う
②	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
③	学校の決まりを守っていますか
④	ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか
⑤	朝食を毎日食べていますか

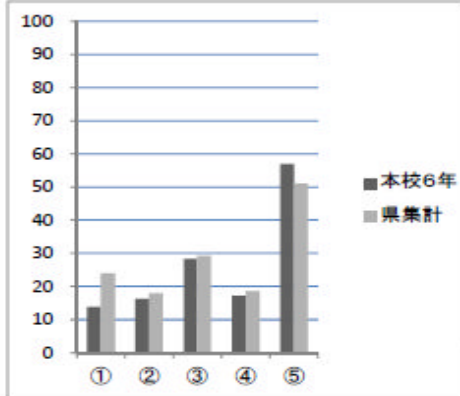


【分析と取組】

○いじめはいけないことだと思っているので、安心して学校生活を送ることができている。
 ○小城市の「早ね早おき朝ごはん」の取り組みが基本的な生活習慣に結びついていると考えられる。
 ○学校や社会のルールを守りながら、人の役に立つ人間になりたいと考えている児童が多い。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどのくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) ⇒ 【2時間以上の割合】
②	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) ⇒ 【1時間以上の割合】
③	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか
④	新聞を読んでいますか
⑤	国語の勉強は好きですか



【分析と取組】

○家庭学習の習慣がある家庭が少なく、スポーツの習い事に熱心である。学校で本を読む姿はよく見られるものの、家庭で1時間以上本を読む習慣がある児童は少ない。
 ○国語の勉強は大切だと思っているが児童は多いが、読み書きを苦手としている児童が多く、苦手意識がある。家庭での時間の使い方について児童、保護者共に再度指導、啓蒙していく必要がある。